

9. ゴールド・フィールズ社(Gold Fields Limited)

1. 企業概要

本社	南アフリカ・ヨハネスブルグ
主要事業	非鉄金属鉱山
従業員数	約 49,400 人
決算日	6 月末日
主要関連会社	・ エルドラド社 (Eldorado Gold Corporation: 37%)

2. 財務状況 (US\$ million)

	2002/2001 年	2001/2000 年	2000/1999 年
売上高 Turnover	1,230	1,011	1,114
当期利益 Net earnings (loss)	302	(119)	103
資産 Total assets	1,966	1,557	2,035
流動資産 Current assets	411	130	160
負債 Total liabilities	895	680	822
流動負債 Current liabilities	236	127	169
株主資本 Shareholders' equity	1,071	877	1,213
探鉱費 Exploration ¹	9	8	21

3. 主要鉱産物の生産・開発状況

主要鉱産物の生産推移

	02/01 年	01/00 年	00/99 年	2002 年の 世界シェア
金 (t)	127.4	117.7	122.6	5.3 % (4 位)

4. 沿革

ゴールド・フィールズ社 (GFL 社) は、1998 年 2 月、南アフリカの 6 大マイニング・ハウスの一つとしてそれぞれ知られていた GFSA 社 (Gold Fields of South Africa Ltd.) とジェンコール社 (Gencor Ltd.) の金資産を統合して設立された。世界 4 位 (02 年生産量) の金プロデューサーである。

GFSA 社は 1887 年に設立された南アフリカ最大・最古のマイニング・ハウスであった。ドリエフォンテイン鉱山 (Driefontein)、クルーフ鉱山 (Kloof: 以上、金)、オーキープ鉱山 (O'okiep: 銅)、ブラック・マウンテン鉱山 (Black Mountain: 銅、鉛、亜鉛) などの優良鉱山に権益を保有し、経営の多角化を進めることで事業を拡大してきたが、硬直的な組織運営で知られる保守的な企業であった。

一方、ジェンコール社は 1895 年に設立されたジェネラル・マイニング社 (General Mining) が前身であり、1970 年代のユニオン・グループ (Union Corporation groups) との合併により社名が変更された。主な権益保有資産にはビートリックス鉱山 (Beatrix: 金)、サマンコール社 (Samancor Ltd.: クロム、マンガン) などがあり、金、ウラン、フェロアロイ、石炭などを生産する南アフリカ第 2 のマイニング・ハウスとして知られていた。

97 年 10 月、ジェンコール社と GFSA 社は両社の金資産を合併して Goldco 社 (仮称) を設立すると発表した。なお、こうした企業再編の動きは、昨今の南アフリカの鉱業事情が背景

¹ 2000/1999 年の探鉱費は R131 から算出。1999/1998 年の探鉱費は Corporation Exploration Strategies のデータを引用した。

にある。直接的には、採掘現場の深部化に伴うコスト増大、金価格の下落が要因で、70年に1,000 tを越えた金生産量が96年以降は500 tを下回るという状況に顕著に認められる。さらに、社会環境の変化として94年5月に黒人指導者マンデラ氏が大統領に就任、アパルトヘイトに基づく白人ならびに大企業優遇政策が撤廃され、98年、「新南アフリカ鉱物、鉱業政策白書」において“資源所有権（Mineral Rights）への課税および非生産鉱区の国家管理”の姿勢が示されたことが挙げられる。

当初、両社はドリエフォンテイン鉱山（Driefontein Consolidated Ltd.）を新会社の母体とすることで検討をすすめていたが、同鉱山の権益15.1%を保有したAAC社（現AAPlc社）が同社所有のウエスト・ディープ鉱山（West Deep）およびウルトラ・ディープ鉱山（Ultra Deep）に近接していることを理由に反対し、本案は白紙に戻った。その後、代替としてビートリックス鉱山を母体とする案が検討されたがこれも否決され、最終的にゴールド・シェルフ・ワン鉱山（Gold Shelf One）を母体とすることで決着した。新会社は、98年2月2日、GFL社としてヨハネスブルグ株式市場に上場された。

その後、GFL社、AngloGold社、AAC社、Amgold社が、各社の資産整理を目的としてGFL社とドリエフォンテイン鉱山の合併に合意、99年4月7日、同合意は両社株主によって支持され、5月4日、南アフリカ高等裁判所により承認された。こうして99年1月1日にさかのぼった両社の合併が成立し、新生GFL社が誕生した。この際、GFL社はAngloGold社の自社保有権益（21.5%）をAAC社に譲渡した。

さらに、2000年6月13日、GFL社はカナダ・トロントに本社を置く世界最大のマイニング・ロイヤリティー会社（mining royalty company）の一つであるフランコ・ネバダ社（Franco-Nevada Mining Corp.）と近日中に対等合併することを明らかにしたが、南アフリカ共和国政府当局の同意が得られず、合併計画は頓挫した。

2002年5月9日に、ニューヨーク証券取引所に株式を上場した。

5. 事業内容

南アフリカ共和国のWitwatersrand Basinにおいて、ドリエフォンテイン（Driefontein）、クルーフ（Kloof）、ビートリックス（Beatrix）の3鉱山を保有するほか、ガーナのタルクワ（Tarkwa）及びダマング（Damang）鉱山、オーストラリアのアグニュー（Agnew）及びセント・アイブス（St Ives）鉱山を保有する。なお、南アフリカのセント・ヘレナ鉱山は、2002年10月にARMGold社とHarmony Gold社のJVに売却された。

02/01年主要権益保有鉱山による鉱石生産

オペレーション名	権益 %	鉱量 百万t	タイプ	品位	生産量 ² (権益分)
ドリエフォンテイン（南アフリカ） Driefontein	100	109.9	UG	7.8 g/t	41.2 t
クルーフ（南アフリカ） Kloof	100	115.9	UG	8.1 g/t	34.2 t
ビートリックス（南アフリカ） Beatrix	100	74.8	UG	5.2 g/t	20.4 t
タルクワ（ガーナ） Tarkwa	71.1	150.7	OP	1.4 g/t	16.9 t (12.0 t)
ダマング（ガーナ） Damang	71.1	20.7	OP	1.8 g/t	4.4 t (3.1 t)
アグニュー（オーストラリア） Agnew	100	3.8	OP、UG	5.0 g/t	2.6 t
セント・アイブス（オーストラリア） St Ives	100	21.7	OP、UG	3.3 g/t	10.6 t

² ダマング鉱山の生産量は2002年6月までの5ヶ月間、アグニュー及びセント・アイブス鉱山の生産量は2002年6月までの7ヶ月間の数字である。

- ・ オリックス (Oryx) 鉱山は、ビートリックス 4 立坑 (Beatrix 4 shaft) として、ビートリックス鉱山に併合された。
- ・ ガーナで、タルクワ鉱山に近接するダマング (Damang) 鉱山の権益をオーストラリアの Ranger Minerals 社から 2002 年 1 月に取得した。権益比率はタルクワ鉱山と同じく 71.1% で、タルクワ鉱山との効率的な探鉱・開発が期待されている。
- ・ 2001 年 11 月に WMC 社からオーストラリアの Agnew 鉱山及び St Ives 鉱山の権益を取得した。
- ・ 2003 年 11 月にセント・アイブス鉱山に新生産設備の建設を行うことを発表した。投資額は 125 百万ドルで、600 千 oz/年へ生産能力が引き上げられる。なお同鉱山のマインライフは 9 年と見られている。
- ・ 2003 年 9 月にドリエフォンテイン鉱区の西端 280,000m²をアングロゴールド社に売却することを発表した。売却される鉱区はアングロゴールド社の鉱山に近接しており、埋蔵量は 1.4 百万トン (金品位 12.7g/t) とされている。なお、売却金額は 315 百万ランド (約 43 百万ドル) である。

6. 探鉱戦略

(1) 概要

デンプー、サンチャゴ、パース、ヨハネスブルグ、オックスフォードに事務所を構え、18 名のスタッフがプロジェクトの発掘・評価を行っている。また、探鉱の対象として、2 百万 oz 以上の金量、年産 200,000 oz 以上、キャッシュ・コストが金価格の半分以下等を掲げている。

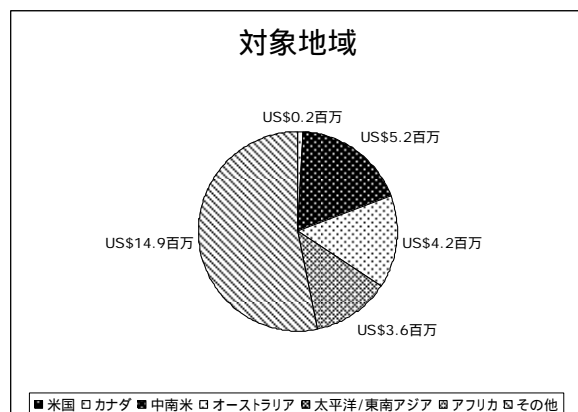
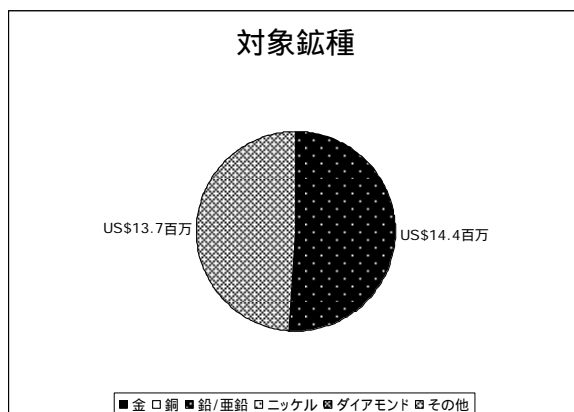
2002 年の探鉱費は US\$ 19.8 百万で、主要非鉄企業中 18 位であった。

(2) 対象鉱種

主に金を対象としているが、後述するフィンランドでの白金族金属の探鉱にかなりの予算を割いている。

(3) 対象地域・探鉱段階

中南米地域、オーストラリア、アフリカ地域で探鉱を行っている。なお、その他の地域の予算の大部分はフィンランドでの探鉱である。探鉱段階に関しては、2000 年の探鉱予算はグラスルーツに US\$14.8 百万 (53%)、事業化調査に US\$13.3 百万 (47%) を充てている。



(4) 最近の動向

(中南米)

グアテマラで Radius Exploration 社と、エクアドルで Iamgold 社と JV を組んで探鉱を行っているほか、ブラジル、ペルー、チリなどで初期探鉱を実施中である。

(アフリカ)

タンザニアで African Eagle Resources 社と Miyabi 鉱床を、Lakota Resources 社と Tembo 鉱床の探鉱を行っている。このうち Tembo 鉱床はバリック社の Bulyanhulu 鉱山に隣接している。

ブルキナ・ファッソでは、カナダの Orezone Resources 社と組んで、Essakane 鉱床の探鉱を実施している。

(フィンランド)

フィンランド北部で白金を対象とした探鉱を実施しており、ゴールド・フィールズ社は最も多くの探鉱予算を割いている。2003 年 3 月には、JV のパートナーであったオートクンプ社から権益の全てを買い取り、100%の権益を保有することとなった。資源量で 156.7 百万トン (品位 2.42 g/t 2PGE+Au) がこれまでに計上されている。